

## 年頭所感（平成 24 年 2012 年）

日本化学繊維協会  
会長 大八木 成男

2012 年の新春を迎えるにあたり、謹んで年頭の御挨拶を申し上げます。

さて、昨年は一言で言うと混迷が深まった一年でした。3月に発生した東日本大震災とその後の福島原発事故は日本の安全神話の崩壊だけでなく、安全に対する考え方、エネルギー政策、情報開示の方法等各方面に波紋を広げました。ギリシャの債務問題に端を発した欧州経済の動揺は、リーマンショックから立ち直るかに見えた世界経済の脆弱性を世界に示しました。更に、多くの日本企業の生産基地が集積するタイでの洪水、これまで世界経済を牽引してきた中国をはじめ新興国の景気減速懸念等、先行き不透明感が広がっています。

化繊業界に目を向けますと、世界の化繊生産量は 2010 年に 4,622 万トン（前年比 12% 増）に達し、益々増加傾向にあります。その中で、わが国の生産量は 2% 強に過ぎませんが、日本の化繊メーカーは高機能・高性能繊維の開発、産業用途をはじめとするテクテキスタイル分野の拡大、新興国市場開拓等成長市場へのシフト、生産拠点の再編成等の構造改革を進め、特に高機能・高性能繊維分野においては世界をリードする存在となっています。昨年、炭素繊維が航空機や自動車用途で採用されつつあることが話題になりました。炭素繊維だけではなく、各種高性能繊維、バイオ繊維、ナノファイバー等日本が得意とする先端素材が、環境、安全・安心を求める社会ニーズによって、拡大期を迎えつつあります。韓国・台湾、中国等の追い上げ、欧米企業が先行する川中先端技術等の課題もありますが、川中業界、ユーザー業界の皆様方と共に、研究・開発を進めて優位性を確保し、有望な成長市場に時代を先取りした新商品を提供し続ける事が、日本繊維産業を持続的に発展させる道であると認識しています。

社会経済の混迷が深まり、先行き見通しにくい中で、日本化学繊維協会は、価値ある素材を提供する素材メーカーの業界団体という原点に立ち返り、繊維及び関連する業界の皆様と協力して業界の発展に資する活動を実施する所存です。最後に、関係各位の御活躍御発展を祈念いたしますとともに、化繊協会に対する更なる御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

以 上